

腫瘍とは

体を構成している細胞が何らかの原因で過剰に増殖してしまうことを言います。

どの場所の、どの細胞が増殖するかで分類され、また転移リスクの有無や体への影響などから良性・悪性に分かります。

腫瘍の種類や年齢、基礎疾患、本人の状態などから治療を選択します。

良性・悪性の診断について

針を刺して一部の細胞を採り、細胞診を行った場合でも良性・悪性の診断はつかないことがほとんどです。切除が可能な腫瘍であれば、切除して病理組織診断(外注検査)に出すことで診断できます。

☆良性の場合…

転移のリスクはありませんが、近い場所に再発する可能性があります。

☆悪性の場合…

悪性度、グレードによりますが、転移や再発の可能性があるため、定期的な診察や検査が必要です。

転移・再発をできるだけ抑えるために継続した治療が必要になります。

＜腫瘍に対する治療法＞

外科切除

細胞レベルで周囲に広がっていることを想定して、腫瘍の大きさより広く切除することがほとんどです。

＜メリット＞

・完全切除できて良性であれば普段通りの生活に戻れる。

＜デメリット＞

- ・傷、痛みを伴う。
- ・切除方法によっては外貌が変化する。
- ・全身麻酔が必要
- ・完全に切除できない場合がある。



化学療法(抗がん剤)

腫瘍細胞にダメージを与え、増殖を止める治療です。腫瘍の種類によって薬剤を選択します。入院点滴での投与、自宅での内服など、薬剤の種類によって投与方法も様々です。

＜メリット＞

・全身的な効果が期待できる。

＜デメリット＞

- ・正常な細胞へのダメージにより副作用が起きる。
- ・頻繁な通院が必要になることが多い。
- ・免疫が低下することがある。

放射線療法

放射線を照射し、腫瘍細胞を破壊します。複数回の照射が必要なため、長期入院になることもあります。

＜メリット＞

・切除が困難な部位にも治療可能。

＜デメリット＞

- ・正常な細胞も破壊されることで周辺組織への悪影響がある。
- ・麻酔や鎮静薬が必要。
- ・実施できる病院が限られる。
- ・非常に高額

免疫療法

外科切除後の再発予防や化学療法の免疫低下を最低限にするために選択されます。また、様々な理由で積極的な治療が難しい場合にも単独で行うことができます。サプリメントやインターフェロンを使用します。

＜メリット＞

- ・副作用がほとんど無い。
- ・他の療法と比べて、体への負担が少ない。

＜デメリット＞

・積極的な治療と比べると効果が確立されていない。